

氏名	西井 賢悟
授与した学位	博士
専攻分野の名称	農学
学位授与番号	博甲第3191号
学位授与の日付	平成18年 3月24日
学位授与の要件	自然科学研究科資源管理科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	農協生産部会の組織再編と信頼型マネジメントの確立に関する研究
論文審査委員	教授 小松 泰信 教授 横溝 功 教授 佐藤 豊信

学位論文内容の要旨

本研究の課題は、我が国の園芸農業における、主産地の担い手組織として機能してきた農協生産部会を研究対象として、その組織再編の実態と、今日的なマネジメント方策を解明することにある。強固な地縁ネットワークを組織基盤としてもち、系統共販、市場流通という固定的な枠組みの中に置かれてきた部会は、市場至上主義の傾向が強まるにつれ、組織内部の主体間の結びつきや外部主体との関係性について、強く再考を迫られている。そこで本研究では、閉ざされた関係からの解放や、自発的な関係の形成などの役割をもつ信頼に着目し、信頼の形成、あるいは、信頼に基づく行動を可能とする組織のシステムを、信頼型マネジメントと位置づけ、その具体的なあり方の検討を進めた。

第一に、部会の統治のあり方について検討し、部会役員を通じた、間接的な影響力行使の仕組みが整備されることなどにより、部会員と部会（部会役員）を結びつける信頼が形成されることを明らかにした。第二に、部会の事業・活動のあり方について検討し、ヒューマン・モーメントとしての交流の場を意図的に創り出すことなどにより、部会員と部会員を結びつける信頼が形成されることを明らかにした。第三に、部会の運営のあり方について検討し、部会員と農協職員による協働によって、より効率的かつ創造的な事業・活動が展開されることを明らかにした。第四に、部会と農協の関係のあり方について検討し、部会が農協の社内ベンチャーのように位置づけられ、現場の自律的な活動が促進されることにより、信頼に基づいて、外部の利益機会の積極的な活用が可能になることを明らかにした。

以上のように、本研究では、統治、運営、事業・活動、農協との関係という四つの観点から、信頼型マネジメントの考究を進めた。本研究から得られた知見が実践されることにより、部会は信頼に基づく組織として質的な転換を遂げ、安定的に発展することが可能となる。

論文審査結果の要旨

わが国の農業協同組合（以下、農協と略す）は、農家のほぼ 100%を組合員とする世界でも類例を見ない協同組織であり、農業者団体である。そして、農家組合員を作目別に組織化したものが、農協生産部会である。当部会は、産地形成に際して重要な役割を担ってきたが、環境変化の強まりの中、そのあり方については検討を迫られている。本研究では、「信頼」をキーワードとして、全国 10 カ所にも及ぶ農協生産部会などの克明な実態調査と、農業協同組合論、社会心理学、企業経営学などに基づいた理論的検討を経て、その組織再編の実態と今日的なマネジメント方策を明らかにした。

その考察結果は、次の四点に要約される。

第一に、部会の統治では、部会役員を通じた、間接的な影響力行使の仕組みが整備されることなどにより、部会員と部会（部会役員）を結びつける信頼が形成される。第二に、部会の事業・活動のあり方では、ヒューマン・モーメントとしての交流の場を意図的に創り出すことなどにより、部会員と部会員を結びつける信頼が形成される。第三に、部会の運営では、部会員と農協職員による協働によって、より効率的かつ創造的な事業・活動が展開される。第四に、部会と農協の関係のあり方では、部会が農協の社内ベンチャーのように位置づけられ、現場の自律的な活動が促進されることにより、信頼に基づいて、外部の利益機会の積極的な活用が可能になる。

以上のように、農協生産部会のあり方について、統治、運営、事業・活動、農協との関係という四つの観点から考究し、「信頼型マネジメント」の必要性とその枠組みが提起された。その内容は、理論的にも実践的にもきわめて有益なものと評価される。

よって、学位審査委員会は、本論文が、博士（農学）の学位論文に値すると判定した。